

社会福祉援助技術演習B			単位数	履修方法(授業形態)	配当学年
			3単位	SR(演習)	3年以上
科目コード	CN4083	担当教員	関川 伸哉/山川 敏久/三浦 剛/ 石田 力/佐々木 裕彦/小山 剛/ 川口 正義/佐藤 博彦ほか		

※平成21年度以降入学者に対して開設されている科目です。平成20年度以前に入学した方、福祉心理学の方は、履修することはできません。

■科目の内容

社会福祉士として求められる専門的資質、専門知識、専門技術の習得を図ることを目的とします。社会福祉士に必要なとされる専門知識、専門技術の習得や専門職として求められる相談援助の一連の過程について、具体的な事例検討等を通してその内容を熟知します。また、支援計画立案に関する基本的な知識・技術の習得を図ることに焦点をあてながら、併せて社会資源の活用や、利用者理解、そして社会生活上の課題に対する理解を深めていくことを目的とします。

■到達目標

- 1) 一連の相談援助過程を具体的なイメージを持って説明でき、その基本的な技術を演習場面において実践できる。
- 2) 事例などから支援計画を作成することができる。
- 3) 社会資源の活用やネットワーク形成の技術について具体的に説明できる。
- 4) プロセス評価、効果測定についてその方法を説明することができる。
- 5) 社会福祉援助活動で使用される基本的な言葉の意味を的確に説明することができる。

■教科書（「演習A」と共通（この科目での配本はありません））

白澤政和・中谷陽明・長谷川匡俊・上野谷加代子編『社会福祉士相談援助演習（第2版）』中央法規出版、2015年（第2版でなくても可）

（最近の教科書変更時期）2015年3月

■履修登録条件

この科目は、「社会福祉援助技術演習A」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録できます。

■在宅学習15のポイント（初版本の内容を基に作成しています）

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	さまざまな事例を活用した相談援助演習（1）地域を基盤とした相談援助演習① 地域福祉計画の策定に関する相談援助演習（第2部第3章）	地域福祉計画の策定に関する相談援助について理解する。 キーワード：地域福祉計画、策定委員会、KJ法、ブレインストーミング、ワークショップ、連携、協働	個別の相談援助を日常業務としている専門職と計画策定とのかかわり、計画策定過程における地域住民の理解と参加促進に必要な援助技術について理解しましょう。あなたの市町村の地域福祉計画書を確認してみましょう。
2	さまざまな事例を活用した相談援助演習（2）地域を基盤とした相談援助演習② 地域におけるサービス提供に関する相談援助演習	地域におけるサービス提供に関する相談援助について理解する。 キーワード：チームアプローチ、ソーシャルサポートネットワーク、成年後見制度、地域ボランティア	地域におけるサービス提供の視点とはいかなるものなのか、フォーマルなサポートのみではなく、インフォーマルなサポートを含め理解しましょう。また、チームアプローチとコーディネーションの重要性についても理解しましょう。
3	さまざまな事例を活用した相談援助演習（3）地域を基盤とした相談援助演習③ 地域におけるネットワークに関する相談援助演習	地域におけるネットワークに関する相談援助について理解する。 キーワード：ネットワークング、ネットワーク会議、民生委員	地域におけるネットワークングについて、ネットワークメンバーが内発的、創造的な活動を生み出すためのソーシャルワーカーの役割を理解しましょう。
4	さまざまな事例を活用した相談援助演習（4）地域を基盤とした相談援助演習④ 地域における権利擁護活動に関する相談援助演習	地域における権利擁護活動に関する相談援助について理解する。 キーワード：判断能力、日常生活自立支援事業、成年後見制度、地域包括支援センター、認知症、身上監護	判断能力が不十分な人が利用可能な制度とはどのような制度が考えられるか。日常生活自立支援事業、成年後見制度を中心に理解しましょう。
5	さまざまな事例を活用した相談援助演習（5）地域を基盤とした相談援助演習⑤ 社会資源の把握、活用、調整、開発に関する相談援助演習	社会資源の把握、活用、調整、開発に関する相談援助について理解する。 キーワード：社会資源、社会資源開発	社会資源の役割・機能、それらを担う人や機関について考えてみましょう。また、その社会資源を、誰が、どの機関が主導するのか理解しましょう。
6	さまざまな事例を活用した相談援助演習（6）地域を基盤とした相談援助演習⑥ 住民参加と組織化活動に関する相談援助演習	住民参加と組織化活動に関する相談援助について理解する。 キーワード：住民参加、住民活動、コミュニティオーガニゼーション、地区社協	住民参加の意義と目標について、住民参加活動の形態について、住民参加支援の方法について理解しましょう。キーワードを中心に学習をしましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
7	さまざまな事例を活用した相談援助演習(7) 実践モデルやアプローチに関する相談援助演習① 治療モデル・環境モデル・生活モデルに関する相談援助演習(第4章)	治療モデル・環境モデル・生活モデルに関する相談援助について理解する。 キーワード：治療モデル、環境モデル、生活モデル	治療モデル・環境モデル・生活モデルの着眼点、考え方、介入の違いについて理解しましょう。また、生活モデルについて、人と環境の相互作用に着眼した支援のあり方とはどういう支援のことなのかを理解しましょう。
8	さまざまな事例を活用した相談援助演習(8) 実践モデルやアプローチに関する相談援助演習② ストレングスモデルに関する相談援助演習	ストレングスモデルに関する相談援助について理解する。 キーワード：ストレングス、社会資源	利用者の「強さ」に焦点化したアセスメントとはどのようなことか、利用者自身が問題解決の主役であることを理解しましょう。また、利用者自身のさまざまな能力や強さ、そして資源をソーシャルワーカーとの協働のなかで活かしながら、生活問題を解決していることを理解しましょう。
9	さまざまな事例を活用した相談援助演習(9) 実践モデルやアプローチに関する相談援助演習③ 心理社会的アプローチに関する相談援助演習	心理社会的アプローチに関する相談援助について理解する。 キーワード：状況の中の人間、心理社会的診断(アセスメント)、持続的支援、ジェノグラム、エコマップ	「心理社会的診断」(アセスメント)の視点について理解しましょう。
10	さまざまな事例を活用した相談援助演習(10) 実践モデルやアプローチに関する相談援助演習④ 機能的アプローチに関する相談援助演習	機能的アプローチに関する相談援助について理解する。 キーワード：潜在的可能性、機関の持つ機能	クライアントが抱える問題・課題、ニーズを明確化すること、また、機関がもっている機能を明確にするということを理解しましょう。
11	さまざまな事例を活用した相談援助演習(11) 実践モデルやアプローチに関する相談援助演習⑤ 問題解決アプローチに関する相談援助演習	問題解決アプローチに関する相談援助について理解する。 キーワード：動機づけ、能力、機会	利用者の抱えている問題、利用者の問題に対処する力に焦点をあて、その人が置かれている状況を理解しましょう。また、問題解決アプローチの考え方を理解しましょう。
12	さまざまな事例を活用した相談援助演習(12) 実践モデルやアプローチに関する相談援助演習⑥ 危機介入アプローチに関する相談援助演習	危機介入アプローチに関する相談援助について理解する。 キーワード：危機介入、共感的理解、アセスメント	危機的状況への共感的理解について理解しましょう。また、アセスメントについて理解しましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
13	さまざまな事例を活用した相談援助演習(13) 実践モデルやアプローチに関する相談援助演習⑦ 行動変容アプローチに関する相談援助演習	行動変容アプローチに関する相談援助について理解する。 キーワード：行動への焦点	利用者の行動や認知の特性に焦点を当て、その人がおかれている状況を理解しましょう。また、事例を通して、行動変容アプローチの考え方を理解しましょう。
14	さまざまな事例を活用した相談援助演習(14) 実践モデルやアプローチに関する相談援助演習⑧ エンパワメントアプローチに関する相談援助演習	エンパワメントアプローチに関する相談援助について理解する。 キーワード：エンパワメント、四つの次元の介入モデル	多次元でのアセスメントや多面的な支援について理解しましょう。利用者自身がパワーを獲得していく過程を学びましょう。
15	さまざまな事例を活用した相談援助演習(16) 実践モデルやアプローチに関する相談援助演習⑩ ケースマネジメントおよびケアプラン（介護保険制度上）に関する相談援助演習	ケースマネジメントおよびケアプラン（介護保険制度上）に関する相談援助について理解する。 キーワード：ケアプラン、インテーク、アセスメント、プランニング、モニタリング、終結、アフターケア	ソーシャルワークの展開過程を事例を通して学びましょう。キーワードそれぞれの段階で、行うべき内容を理解しましょう。

■レポート課題

※レポートの提出方法については p.143参照のこと。

1 単位め	(スクーリング事前課題=できるだけ 9/15 or 3/15まで、遅くともスクーリングの各受講日 10/15 or 11/30 or 4/15) までに送付) 相談援助実践における記録の意義と具体的記述方法をまとめてください。また、同じく相談援助におけるスーパービジョンの目的、機能、あり方についてまとめてください。 (担当：佐藤博彦)
2 単位め	(スクーリング受講前の提出を希望=遅くとも受講後 p.143の提出期限までに送付) 社会福祉実践において、またソーシャルワーカーにとって地域社会資源の活用や開発の①意義や必要性と②その留意点について述べなさい。 (担当：三浦剛)
3 単位め	(スクーリング事後課題=スクーリング受講後 p.143の提出期限までに送付) 平成18年に改正、平成19年に公布された「社会福祉士および介護福祉士法」の一部改正に伴う、今後の社会福祉士の役割と課題についてまとめてください。 (担当：関川伸哉)

■アドバイス

※レポート作成に当たっては、ご自身の経験だけでなく、教科書をよく読んだうえで取り組んでください。3単位めは5冊以上の文献にあたってください。ただし、教科書や文献の丸写しは避けてください。

1 単位め アドバイス

ソーシャルワーク実践における記録の意義とはなんでしょうか。まず、何故ソーシャルワーク実践において記録が必要なのか考えてみましょう。また、記録形式についてまとめてください。次に、スーパービジョンについてです。スーパービジョンは、ソーシャルワーク実践に関して、知識・技術・倫理等が十分備わっていないワーカーに対してもなされるものですが、経験豊かなワーカーにもその必要性があります。ソーシャルワーク実践において、実践に携わるすべてのワーカーに対して、何故スーパービジョンが必要なのでしょう。そのスーパービジョンの目的、機能、あり方についてまとめてみましょう。また、記録とスーパービジョンの関係性も併せて考察してみましょう。

2 単位め アドバイス

社会資源開発とは、ソーシャルワークの中心的な技術です。ケアマネジメントの側面だけではなく、まちづくりや制度化といった側面についても学び、事例などを用いて具体的にその技術を説明できるようにしてください。

3 単位め アドバイス

はじめに、今回の改正法にいたる背景について整理してください。その後、課題について客観的にまとめてください。その際に、事実と各自の考察（考え）をしっかりと分けて作成するように心掛けてください。

また、レポート作成の際には、**必ず**章立てを行ってください。

記載方法（例）

1. 法改正にいたる背景について
2. 改正の主な〇〇について
3. 今後の社会福祉士の役割について
4. 今後の社会福祉士の課題について
5. まとめ

引用・参考文献

※レポート末尾に本文中で使用した引用・参考文献を必ず5つ以上明示してください。

■参考図書

1 単位め

- 1) 福山和女編著『ソーシャルワークのスーパービジョン』(MINERVA 福祉専門職セミナー14)、ミネルヴァ書房、2005年
- 2) 副田あけみ・小嶋章吾編著『ソーシャルワーク記録——理論と技法』誠信書房、2006年

2 単位め

- 1) 日本社会福祉士会編『障害者ケアマネジメントのための社会資源開発』中央法規出版、2001年（図書館を利用してください）
- 2) 白澤政和・竹内孝仁・橋本泰子監修『ケアマネジメント講座（1）ケアマネジメント概論』中央法規出版、2000年

■レポートの提出方法・期限

- ・1単位につき1冊のレポート用紙を使用してください。
- ・各レポートの字数は2,000字程度ですが、最長4,000字程度まで可です。
(パソコン用：左右40字×30行×4枚まで、手書き用：最終ページまで)
- ・各レポート表紙には、「レポート課題」記載の担当教員名を記入してください。

1単位めレポートは、スクーリング受講判定日までに提出。

2単位めレポートは、スクーリング受講許可通知後から受講後11/30までに提出。

3単位めレポートは、スクーリング受講後11/30までに提出。

※実習免除者の2・3単位めのレポートは、「演習C」スクーリング受講申込締切日までに提出。

■演習B スクーリング受講条件

下記(1)(2)を満たしていることが必要です。

(1) 3年生以上の方、または10月生は9/15時点で、4月生は3/15時点で2年生の方。

(2) 受講判定日(9～11月開講分：9/15・10/15、5～6月開講分：3/15・4/15)までに、下記の①～⑤の条件を達成していること。

① 「社会福祉援助技術総論」「社会福祉援助技術演習A」の2科目分すべてのレポート提出。

② 上記2科目以外に社会福祉士・指定科目のなかから4科目分すべてのレポート提出(個別単位認定科目を除く)。

③ 「演習B」の1単位めレポートの提出。

④ (入学後1年以上経過した方は)認定単位を除き20単位以上の修得。

⑤ 社会福祉士養成課程履修費が納入済みであること。

※9～10月のスクーリングは9/15時点で条件を満たさないと、原則受講できません。

■演習B スクーリング申込手続

申込時の注意点

- ・申込締切は9/15または3/15です。
- ・『With』(7～8月号や1月号を予定)巻末の申込ハガキまたは用紙を郵送すること。
- ・必ず第2希望(第1希望と同一不可)まで○をつけること(9/15申込締切分のみ)。
- ・申込後の希望の変更は不可。

各申込日について

- ・9/15締切の申込⇒9～11月に受講を希望する方がお申込みください。
- ・3/15締切の申込⇒5～7月に受講を希望する方がお申込みください。

■スクーリング受講クラスの決定方法

9/15・3/15(初回判定日)の時点で受講条件を満たした方は、原則として第2希望までの日程で受講が可能です。それ以降に条件を満たした方は、希望の日程に空きがあれば配慮しますが、定員に達している場合は無作為に振り分けます。教員を指定することはできません。

※申込みハガキに第2希望まで書かれていない方、これまでにスクーリング受講料納入の遅延やス

クーリングに事前の届出なしに欠席されたことのある方、その他ルールが守れない方の優先順位は下がります。

■スクーリング講義概要

『試験・スクーリング 情報ブック』をご参照ください。

■科目の評価基準・単位の認定方法

レポート30%+実践や説明30%+スクーリング試験40%で評価します。

※スクーリング試験は、ソーシャルワーク実践に関する基本的な知識の確認テストとなります。この確認テストにおいて合格点（点数60点以上）に達しない場合は再履修となります（再試験・再レポート等一切ありません）。

※単位修得できなかった方が再受講する場合、スクーリングの申込みはあらためて必要ですが、既に合格済みのレポートは有効となります。